

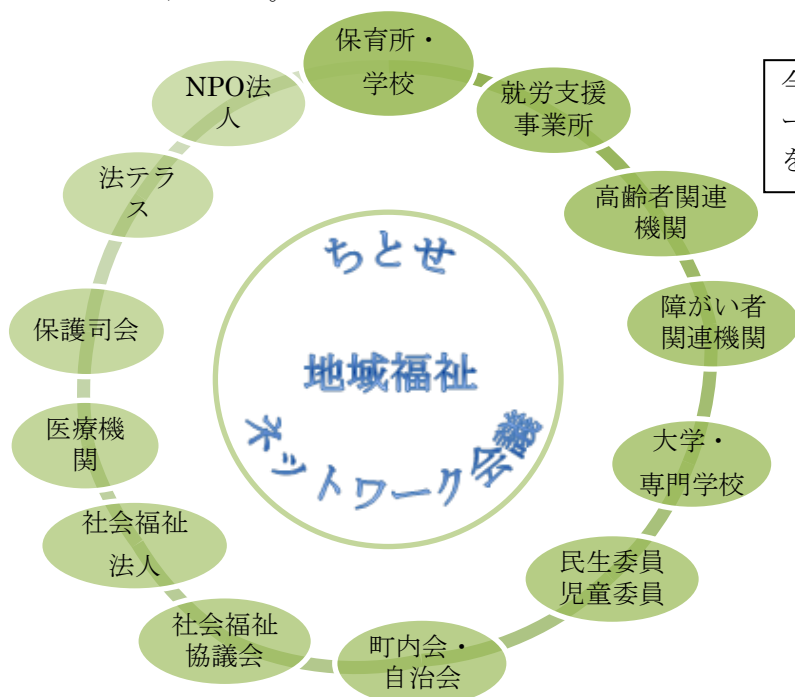
ちとせ 地域福祉ネットワーク通信

Together ~一緒に~

平成 28 年 1 月 発行
事務局：千歳市保健福祉部
福祉課総務係
☎ 24-0292
Fax 22-8851

平成 27 年 12 月 4 日（金） 第 1 回ちとせ地域福祉ネットワーク会議を開催しました！

- テーマ：「生活困窮者自立支援制度と地域の係わり方」
- 参加者： 青少年育成市民会議、民生委員児童委員連絡協議会、千歳いずみ学園、社会福祉協議会、老人クラブ、町内会連合会、障がい者総合支援センター、ハローワーク千歳、ひまわり号を走らせる会、地域生活支援センターせらび、千歳リハビリテーション学院、優美居宅支援事業、教頭会等、福祉分野の第一線で業務に従事している方や地域に密着した活動を行っている方、合計 30 名が参加されました。



今後も、多くの方たちと連携しネットワークを構築して、支援の輪を広げることを目的に活動します。



○会議内容

テーマ「生活困窮者自立支援制度と地域の係わり方」について、北海道総合研究調査会（HIT）主任研究員の寺下 麻理 氏の講演の後、グループワークを実施し、①普段の活動で把握している生活困窮者と思われる方、②その方の支援について感じている課題、③解決するために必要な事の3つについて、活発な意見交換や議論が交わされ、課題解決に必要なこととして、

- ・周囲の見守り、くり返し声をかけるなど、隣り近所の付き合いを通し、情報を集めることが大切である。

- ・時には専門機関への情報提供、行政との連携など、相談をしっかりとっていくことが大事である。

- ・司法、弁護士などの専門分野の力が必要な場合もある。

- ・細やかな見守り、声掛けなど、地域とのつながり必要である。

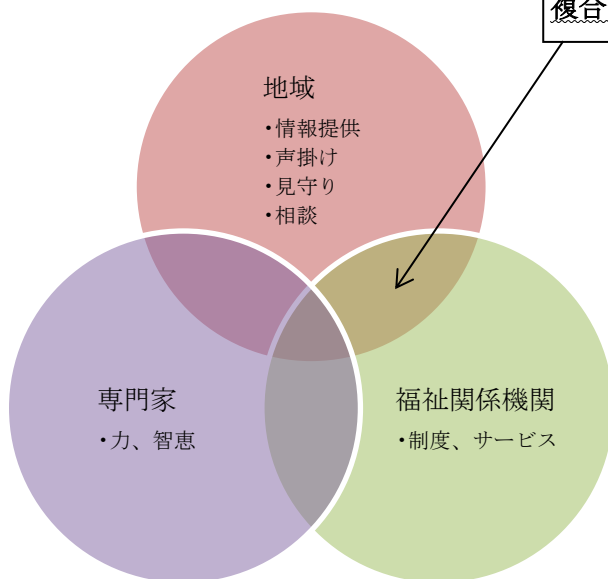
- ・今あるサービスを最大限利用し、周りの目で課題を早く見つけることも大事である。

などが発表されました。



○まとめ

課題の解決方法



相談者の話を聴いて
複合的な課題をときほぐすことが必要

活動で感じている課題

- ・世帯の中に課題が紛れている
- ・母子家庭、介護離職等の事由で仕事ができない、辞めざるを得ない
- ・本人に困り感がない
- ・(民生委員等) 周りを受け入れない
- ・困っていることを発信できない
- ・自分から相談にいけない
- ・どこに相談したらよいかわからない
- ・どのように係わるべきか、対応に困るなど、これらが複合的に絡み合っている



- ・課題が複合的で一つの機関では対応、解決できない場合、住民、行政、専門家の連携が必要である。
- ・くり返し声掛け、こまめな見守り、つながりを深くする(魔法のサービスはない)。
- ・相談者の話をよく聞いて、複合的な課題を解きほぐしていく。(アセスメント)
- ・地域の中で、気になる人を見つけたら、まずは、声を掛けることで、困っている人を救っていただけるかもしれない。



..... ちとせ地域福祉ネットワーク会議のポイント!

会議でわかりあえる4つのこと!

- ☆地域の福祉の現状をわかって
 (地域の福祉の状況を共有します)
- ☆地域で困っている人のこと(福祉ニーズ)をわかって
 (地域にある福祉課題や求められる支援の情報を共有します)
- ☆地域の誰が何をしているのかをわかって
 (地域に関わる他職種の人が集まるのでお互いの顔、お互いの役割がわかり、より連携がとりやすくなります)
- ☆地域の住民ができることをわかって
 (福祉ニーズが広がる中で住民ができる助け合いの内容がわかります)



地域社会の課題に対応できる
ネットワークの構築

※次回(第2回)ちとせ地域福祉ネットワーク会議は、平成28年2月25日(木)に予定しています。